

公立中高一貫校入選(入試)概況

◎ 公立中高一貫校では、正式には入試とは呼ばず、行政に合わせて「入学者選抜(略して入選)」の用語を使用しています。

◆ 東京都

東京都では一昨年、11校ある公立一貫校のうち、都立の10校について適性検査問題の一部共通化が図られました。今年は共通化3年目の選抜です。応募状況は区立九段中等を含む11校合計で、昨年は11校体制になってから続いていた10,000名台の応募者総数を割り込み、9,700名あまりとなりましたが、今年はさらに減って9,200名あまりでした。まず、唯一の区立の九段中等は区分A(千代田区民枠)の応募者が男女ともやや減っています。減少、増加、減少と推移していて隔年現象です。今年は順番通り減ったわけです。区分B(一般都民枠)は一昨年、昨年と減少していましたが、今年は男子が増加、女子も少し増えています。人気を上向いてきました。区分Aは昨年とあまり変わらない難度だったようですが、区分Bはやや難化したようです。

23区の都立では、富士の応募者が増加、白鷗高附属は昨年並みですが、他校は減っています。小石川の一般枠は男子がやや減、女子は微増です。昨年は男女とも応募者がかなり増えましたから、人気が一段落したのでしょうか。隔年現象の面もあります。ただ、倍率水準は今年も高く、難度はあまり変わっていないようです。小石川の特別枠は今年も応募者が1名でした。白鷗高附属は特別枠が男女とも応募者増加、一般枠の男子は昨年並み、正確には微増、女子は少し減って合計では昨年並みです。昨年は男子の一般枠が減少、女子の一般枠は微増でした。男子の一般枠はこのところ応募者の減少が続いていましたが、高倍率の敬遠モードに歯止めはかかったようです。やはり高倍率ですので、男女とも難度は特に変化がなかったようです。なお、白鷗高附属の特別枠の分野別入試状況の詳細は次のページの下に掲載しました。

両国高附属は男女とも応募者が減っていますが、特に男子は大きく減っています。昨年もやや減っていま

した。敬遠モードが出ていることは確かですが、高倍率だけでなく、伝統的に東大や東工大、一橋大よりも千葉大や筑波大に挑戦する生徒が多いことも影響しているかもしれません。男子は少し入り易くなったようです。女子の難度はあまり変化がなかったと思われます。桜修館は男女とも応募者が減っています。昨年は男子が微減、女子の減少が目立っていましたが、今年は男子の減少が目立ちます。一昨年も減少していました。もともと女子の応募者が多い学校で、高倍率が続いていましたから、敬遠傾向がはっきりしてきました。ただ、高倍率ですから、やや入り易くなったかどうか、といった難度でしょう。

大泉高附属は女子の応募者が減少、男子もやや減っています。一昨年まで応募者の減少が続いていて、昨年は前年並みと言ってよいくらいの小幅な減少でしたが、敬遠モードに歯止めはかかっています。ただ、高倍率ですし、女子はやや入り易くなったかどうか、男子は昨年とあまり変わらない難度だったようです。富士高附属は女子の応募者が増加、男子もやや増えています。昨年は女子が減っていましたから、隔年現象的な変化です。男子は小幅ですが増加が続いていて、じわじわ人気が上がっています。男子は昨年並みの難度だと思われませんが、女子はやや難化したようです。

多摩地区では立川国際が昨年並みの応募者数でしたが、他の3校は減りました。立川国際は帰国・外国人枠の応募者が若干減、一般枠の女子もやや減りましたが、男子は増えていて、合計では昨年並みです。女子の一般枠は隔年現象で増減していましたが、昨年に続く減少で、少し敬遠モードが出たようです。男子は一昨年、昨年と減少が続いていましたが、人気は反転上昇しました。男子はやや難化したようですが、女子の難度はあまり変わっていないようです。三鷹中等は男女とも昨年に続いて応募者が少し減っています。男子は減少が続いていて、高倍率の敬遠モードが出ています。

女子の応募者数も、前年並みから減少に転じていますので、男子の敬遠ムードに影響されているのかもしれませんが、ただ、倍率水準はそれでも高く、あまり入り易くはなっていません。

南多摩中等も男女とも応募者が減っています。一昨年は減少、昨年は前年並みでしたが、高倍率敬遠ムードに歯止めはかからなかったようです。やはり倍率水準はそれでも高く、男女ともやや入り易くなったかどうか、といった難度でしょう。武蔵高附属も男子の応募者が減少、女子も少し減っています。昨年は男子がやや減、女子は小幅の増加でした。男子は隔年現象的な変化になってきましたが、女子は安定した中での変動になっています。男子はやや入り易くなったかもしれませんが、女子は難度に変化はなかったようです。

ところで、毎年合格者の中で入学を辞退するケースがありますが、特に今年は小石川中等の女子で20名が辞退しました。小石川中等は男子も9名辞退していて、他に両国高附属の男子8名、武蔵高附属の男子5名も目立ちます。いずれも難関私立の併願者でしょう。

◆ 神奈川県

注目の新設校、サイエンスフロンティアは、男子450名、女子235名の応募者数でした。同じ横浜市立の市立南高附属の開校時に比べるとかなり少ない印象ですが、募集規模が半分になっていること、校名が示すように理系の学校だからでしょう。敬遠した女子受験生も多かったようです。受験倍率は男子が10倍超、女子も5倍を超えています。適性検査問題は奇をてらうような出題はなく、しっかり文章や資料を読み込んで考えれば十分解答できる問題で、かなり高い正答率が求められたと思われます。

開校6年目の横浜市立南は、男女とも応募者が大きく減っています。サイエンスフロンティアが開校し、そちらに流れた受験生がいたためです。それでも応募者は1,000名を超えていますから高い人気です。倍率も昨年の7.6倍から6.2倍に下がって、少し入り易くなったようですが、昨年までは適性検査を3種類実施していたのが今年から2種類になったため、ボーダーライン付近での競争は逆に厳しくなったようです。

県立の相模原中等は、昨年は女子の応募者が大きく減り、男子は僅かですが増えましたが、今年は男女とも大きく増えて人気が上がっています。横浜北部の受

験生がサイエンスフロンティアに流れて応募者が減るのでは、という予測もありましたが、一部は流れたものの、それを上回る受験生の増加でした。少し難化したようです。平塚中等は男子の応募者が増加、女子も昨年並みでした。昨年、一昨年と、男女とも応募者数が安定していましたが、今年は男子の人気が上がっています。女子は昨年とあまり変わらない難度だったようですが、男子はやや難化しています。

開校4年目の市立川崎は男女別の応募者数が未公表ですが、一昨年、昨年に続いて応募者が少し減っています。開校時の人気が一段落し、無理な出願が減ってきました。難度面ではあまり変化はなかったようです。

◆ 千葉県・埼玉県

千葉県には県立千葉、市立稲毛、昨年開校の県立東葛飾の3校があります。まず開校2年目の県立東葛飾は、昨年は1,100名を超える応募者数でしたが、今年は男女とも減って、1,000名を切りました。これは「2年目のジंकス」と呼ばれる現象で、他都県も含めた多くの他校でも見られる現象です。人気下がったわけではありません。1年目は難度が分からないこともあって、ほとんど受験準備をしていない児童も「学校で友だちが受けると言っているから」といった理由で出願するケースが多く、応募者が膨らんでしまいがちです。しかし2年目ともなると、簡単には合格しないことが知れ渡って、こうした児童が減って、応募者数も減ることになります。したがって、難度面はむしろ上がるケースも見られます。1次・2次の両方で適性検査を実施する2段階選抜ですが、1次については同校も難化しているのかもしれませんが、2次は、1次合格者のみが受験しますが、私立に先に合格した受験生が棄権するケースがあり、若干ですが昨年より棄権率が上がっています。難度に影響するほどではありません。

県立千葉は男女とも応募者がやや減っています。昨年も減少していますが、昨年ほどの減少幅ではありません。船橋市の北部など、東武野田線経由で柏が遠くない受験生は東葛飾に流れたケースが今年も出たようです。それでも男女とも1次は2倍を超える高倍率で、難度も昨年とあまり変わっていないようです。2次の棄権率は男女とも昨年よりも下がっていますので、2次はやや難化したのかもしれませんが。

市立稲毛は、男女とも昨年並みの応募者数でした。

昨年は減っていましたので、今年は人気が安定しています。同校は県立の2校と違って2段階選抜ではなく、1回だけの選抜で合否が決まりますが、倍率も昨年並みですから、難度に目立った変化はなかったようです。

埼玉県には首都圏の本格的な公立一貫校第1号の伊奈学園と、市立浦和高附属の2校があります。伊奈学園は女子の応募者が減っていて、男子は若干増えていますが、合計では少し減りました。男女合計定員で、例年女子の入学生の方が多い学校(概ね女子の

2~2.5倍)です。応募者は昨年も減っていて、特に女子には高倍率から少し敬遠傾向が出ているのかもしれませんが、特に入り易くなったわけではないようです。市立浦和高附属は、昨年は男女とも応募者がやや減っていましたが、今年は男子が増加、女子も昨年並みでした。1次・2次の2段階選抜で、両方とも適性検査を実施していますので、1次はやや難化したようです。2次は昨年並みでしょう。

☆ 都立白鷗高附属の特別枠の内訳

区分	分野	募集定員	応募者数		受験者数		合格者数	
			男	女	男	女	男	女
A	国語	10名程度	7	13	7	13	0	3
	算数		8	3	8	3	0	1
	英語		9	15	9	15	0	2
B	囲碁・将棋	6名程度	3	2	3	2	1	1
	邦楽		0	2	0	2	0	0
	邦舞・演劇		3	1	3	1	1	0

※本概況は、2017年2月15日までに回答のあった学校アンケートに基づき作成しています。2月15日以降変更等ある場合がありますので、ご了承ください。